

## 調理用具の持参と調理実習

—— オリジナルずしを中心に ——

白井 美幸\*・山本 紀久子\*\*・西野 鏡子\*\*\*

(2007年9月28日受理)

## Cooking Practice with Food Preparation Tools

Miyuki SHIRAI, Kikuko YAMAMOTO and Kyouko NISHINO

キーワード：調理用具，調理実習，ずし作り，中学校

家庭科では、体験的・実践的な学習を重視しており、調理用具は、重要な役割を持つ。発展的な学習等地域素材を取り入れた調理実習例にあわせて、学校に備えられている調理用具以外にも必要な調理用具がでてくる。そこで、ずし作りの授業実践を行い、家庭から調理用具を持参することに対する意識調査を実施した。その結果、調理実習前では、女子は、調理用具の持参に対して男子よりも好意的な意識を持っていたが、調理実習後では、男子の調理用具の持参に対する意識が好意的なものへと変化し、全体的に女子の意識が高いものの男女差は、縮小されることが明らかとなった。

### はじめに

平成15年12月学習指導要領一部改正<sup>1)</sup>では、学習指導要領に示す内容の確実な定着を図るとともに、小・中・高等学校の実態や創意工夫による個に応じた指導、児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習等を取り入れた指導が加えられ、教科書の中に、ちらしずしの調理実習例や1食分の献立を考えた太巻きずしの調理応用例等、祭りずし、笹の葉ずし、岩国ずし、あじの押しずし、柿の葉ずし、手こねずし等の郷土料理・行事食が記載されている<sup>2) 3)</sup>。それらの調理実習例にあわせ、学校に備えられている調理用具以外にも、必要なものがでてくる。

\* 茨城大学大学院教育学研究科 (Graduate School of Education, Ibaraki University, Mito, Japan) .

\*\* 茨城大学教育学部家庭科教育研究室 (Course of Home Economics, College of Education, Ibaraki

University, Mito, Japan) . \*\*\* ひたちなか市立佐野中学校 (Sano Junior High School, Hitathinaka, Japan) .

また、魚や米を使ったすしは、1980年代頃からアメリカで健康によい食べものとして、スシ・ブームが起き、現在では、世界中に広がっている<sup>4)</sup>。一方、日本では、すしを肉食として家庭で作ることは少なく、外食として鮎屋、回転寿司等で食べたり、中食としてスーパーマーケットやデパートの総菜コーナーで購入されたりしている。

これまで筆者らは、食生活関連用具の選定の一環として、小・中学校教科書の調理用具の記載や大学生における調理用具の保有・使用の状況について研究をする中で、巻きすやすしおけが単身世帯では、ほとんど保有されていないことや、核家族世帯・拡大家族世帯では保有がみられるものの使用されていないことが明らかとなった<sup>5) 6) 7)</sup>。

そこで本稿では、中学校でのすし作り（巻きすし、押しすし）の授業実践を通して、家庭からの調理用具の持参や調理用具の代用を調理実習前後の意識における変化の検討を進めていくことで、授業運営の基礎的資料を得ることを目的とした。

## 研究方法

### 1 対象

対象は、茨城県のS中学校の第2学年の71人（男子32人、女子39人）で、調理計画段階と調理実習にともに出席したものを採用した。

### 2 実施期間と実施場所

実施期間は、2007年6月から7月である。実施場所は、茨城県のS中学校の被服室と調理室において、題材「オリジナルずし」の授業を3時間（レシピ作り1時間、調理実習2時間）実施した。

### 3 調査内容

調理実習前後に調理用具に対する意識調査を質問紙法で実施した。項目は、生徒による家庭から調理用具持参に対する意識（7項目）についてである。回答方法は、「まったくそう思わない（1）」から「とてもそう思う（5）」までの5件法とし、それぞれを数値化し平均値を求めた。

### 4 材料・用具

調理実習のレシピ作りの授業では、教師は、レシピ用紙（A4用紙）を生徒の人数分、レシピの見本（A4用紙）を各班2枚、掲示物（全国の伝統的なすしの写真、オリジナルずしの見本の写真）、生徒は、筆記用具、色鉛筆、教科書を準備した。

調理実習では、教師は、調理実習の材料、各班にふきん2枚・台ふきん1枚、掲示物5点（合わせ酢の割合、すし飯の作り方、巻きすし・押しすしの作り方、巻きすしの切り方）を準備した。生徒は、三角巾、エプロン、筆記用具、一部に家庭から持参した調理用具を用意した。

## 5 手続き

茨城県には、特徴的な郷土料理や行事食としてのすしがみられない。そこで、行事等で食べられるオリジナルずし作りを題材とした。題材に入る1週間前に「オリジナルずし」を3時間（レシピを1時間で作成し、その後2時間の調理実習）で行うことと、押しずし・巻きずしのどちらかを選択することを予告した。また、教師が、巻きずしを班で1枚、押し型の代用品を班で1個準備することを告げた。

- 1) レシピ作り前に、各班にレシピの見本を置き、教師側で材料を13品目（きゅうり、ほうれん草、たまご、のり、しそ、うめぼし、納豆、たくわん、紅ショウガ、かにかまぼこ、ハム、チーズ、でんぶ）提示し、レシピ用紙には、1人分の材料を記入することを説明した。また、下準備の分担（卵を焼く、ほうれん草をゆでる等）を決めるように告げた。そして、授業の残り10分にアンケート用紙を配布し、授業終了後に回収した。
- 2) 調理実習日、登校後に事前の準備として、班ごと（5～6人）にご飯を炊く準備（米・水の計量、とぐ等）をした。
- 3) 調理実習では、教師用調理台に生徒が集合した後、生徒を1人指名し、計量のきまりを示しながら、合わせ酢の分量について確認した。すし飯の作り方（うちわでご飯をあおぎ、切るようにまぜること等）・巻きずしの作り方（のりの裏表の区別、ご飯の盛り方、巻き方、巻きずしの切り方）・押しずしの作り方を、掲示物（すし飯の工程の写真）を見せながら説明をした。
- 4) 調理実習は、巻きずし班と押しずし班の計8班に分かれ、レシピをもとに「オリジナルずし」作りを行った。オリジナルずしが出来上がった班から、調理台や使った調理用具を片付けて、試食をした。
- 5) 調理実習の授業の残り10分に、アンケート用紙を配布し、授業終了時に回収した。

## 結果および考察

### 1 オリジナルずしの種類

「オリジナルずし」の種類は、巻きずし44人61.0%（男子20人、女子24人）、押しずし27人38.0%（男子12人、女子15人）である。巻きずしの人数は、押しずしのおよそ1.6倍であった。男子と女子の割合は、巻きずしでは、男子45.5%、女子54.5%、押しずしでは、男子44.4%、女子55.6%であり、どちらも女子が10%近く多くなっている。

### 2 調理実習前の調理用具に対する意識

表1に、調理実習前の調理用具持参の意識の平均値と標準偏差を、表2に、調理実習後の調理用具の持参意識の平均値と標準偏差を示す。

調理実習前の家庭から調理用具持参に対して、男子は②「持ってくるのが楽で大きくなければ持

表1 調理実習前の調理用具持込意識の平均値と標準偏差

質問項目	覚えていない			覚えていない		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体
①調理が簡単にできるから持ってきてきたい	3.41(1.41)	3.67(0.96)	3.55(1.18)	3.30(1.39)	3.65(1.03)	3.48(1.30)
②持ってくるのが楽で大きくなければ持ってきてきたい	3.44(1.39)	3.77(1.06)	3.62(1.22)	3.30(1.56)	3.67(1.13)	3.50(1.34)
③家庭にある調理用具なら持ってきてきたい	2.84(1.25)	3.38(0.85)	3.14(1.07)	2.65(1.31)	3.25(0.85)	2.98(1.11)
④普段使ったことがないから持ってきてきたい	2.58(1.24)	2.87(1.17)	2.73(1.21)	2.30(1.30)	2.74(1.11)	2.55(1.21)
⑤作りたいものを作るためなら持ってきてきたい	2.94(1.22)	3.62(0.88)	3.31(1.09)	2.70(1.30)	3.79(0.78)	3.30(1.17)
⑥料理が上手にできるから持ってきてきたい	3.05(1.41)	3.56(0.20)	3.34(1.22)	2.70(1.42)	3.38(1.01)	3.07(1.24)
⑦用具がない時は、代わりのものを持ってきてきたい	2.89(1.33)	3.23(1.24)	2.99(1.30)	2.42(1.40)	2.92(1.21)	2.70(1.30)

( ) 内は、標準偏差

表2 調理実習後の調理用具持込意識の平均値と標準偏差

質問項目	覚えていない			覚えていない		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体
①調理が簡単にできるから持ってきてきたい	3.81(1.30)	4.10(0.91)	3.97(1.11)	3.65(1.35)	3.92(1.02)	3.80(1.17)
②持ってくるのが楽で大きくなければ持ってきてきたい	3.63(1.19)	4.00(1.00)	3.83(1.10)	3.60(1.23)	3.79(1.10)	3.70(1.15)
③家庭にある調理用具なら持ってきてきたい	3.13(1.21)	3.62(0.99)	3.39(1.12)	3.35(1.14)	3.50(1.02)	3.43(1.07)
④普段使ったことがないから持ってきてきたい	3.25(1.30)	3.23(0.90)	3.24(1.09)	3.15(1.30)	3.25(0.94)	3.20(1.11)
⑤作りたいものを作るためなら持ってきてきたい	3.53(1.27)	3.72(1.08)	3.63(1.16)	3.50(1.24)	3.75(0.99)	3.64(1.10)
⑥料理が上手にできるから持ってきてきたい	3.69(1.20)	4.00(1.03)	3.86(1.11)	3.55(1.28)	3.88(0.99)	3.73(1.13)
⑦用具がない時は、代わりのものを持ってきてきたい	3.38(1.39)	3.64(1.11)	3.52(1.24)	3.30(1.49)	3.38(1.17)	3.34(1.31)

( ) 内は、標準偏差

ってきたい（持参しやすい用具）」3.44 が最も高く、次に①「調理が簡単にできるなら持ってきたい（調理が簡単にできる）」3.41, ⑥「料理が上手にできるなら持ってきたい（上手にできるなら）」3.06, ⑤「作りたいものを作るためなら持ってきたい（作りたいものが作れるなら）」2.94, ③「家庭にある用具なら持ってきたい（家庭にある用具）」2.84, ⑦「用具がない時は、代替りのものを持ってきたい（代用品）」2.69, ④「普段使ったことのないものなら持ってきたい（使用したことがない用具）」2.56 の順であった。（以下、それぞれの項目については、キーワードのみ記入する。）女子は②「持参しやすい用具」3.77, ①「調理が簡単にできる」3.67, ⑤「作りたいものを作るなら」3.62, ⑥「上手にできるなら」3.56, ③「家庭にある用具」3.38, ⑦「代用品」3.32, ④「使用したことがない用具」2.87 であり、⑤「作りたいものを作るなら」と、⑥「上手にできるなら」の順位が逆になっている。男子は、調理用具を持参することで、料理が上手にできることを、女子は、作りたいものが作れることを優先させていることが認められた。男子では、調理実習前の家庭からの調理用具持参について平均値 3.5 以上はみられず、女子では、4 項目（②「持参しやすい用具」、①「調理が簡単にできる」、⑤「作りたいものを作るなら」、⑥「上手にできるなら」）にみられ、③「家庭にある用具」と④「使用したことがない用具」においては、「まったくそう思わない（1）」は認められなかった。以上から、女子は、調理用具を家庭から持参することに対してより好意的であることが認められた。

全体としては、調理実習前の家庭から調理用具を持参することに対して、②「持参しやすい用具」3.67 が最も高い値を示し、次に①「調理が簡単にできる」3.55, ⑥「上手にできるなら」3.34, ⑤「作りたいものを作るなら」3.31, ③「家庭にある用具」3.14, ⑦「代用品」2.99, ④「使用したことがない用具」2.73 の順であった。②「持参しやすい用具」と①「調理が簡単にできる」は、平均値 3.5 以上を示し、男女ともに、家庭から調理用具を持参するうえで、調理が簡単にでき、持参しやすい大きさであることが重要であることが分かった。

#### 1) 巻きずしの調理実習前の家庭からの調理用具の持参に対する意識

巻きずしの調理実習前の調理用具への意識は、男子では、①「調理が簡単にできる」3.30 が最も高く、次に②「持参しやすい用具」3.30, ⑤「作りたいものを作るなら」2.70, ⑥「上手にできるなら」2.70, ③「家庭にある用具」2.65, ⑦「代用品」2.42, ④「使用したことがない用具」2.30 の順で（①と②、⑤と⑥は、同じ平均値を示した）、女子は、⑤「作りたいものを作るなら」3.79, ②「持参しやすい用具」3.67, ①「調理が簡単にできる」3.63, ⑥「上手にできるなら」3.38, ③「家庭にある用具」3.25, ⑦「代用品」2.92, ④「使用したことがない用具」2.74 の順であった。女子において、最も高い意識を示したのが⑤「作りたいものを作るなら」であり、巻きずしの女子は、家庭から用具を持参する際は、作りたいものが作れることに対して、男子は、簡単にできることを重視していることが分かる。男子では、平均値 3.5 以上がみられないが、女子では 3 項目（⑤「作りたいものを作るなら」、②「持参しやすい用具」、③「家庭にある用具」）であり、家庭から用具を持参することに肯定的であるといえる。押しずし男子では④「使用したことがない用具」、⑦「代用品」の平均値は 2.5 以下であり、使用したことがない調理用具や代用品を家庭から持参すること

に対して抵抗感を感じていると推察される。

巻きずし全体としては、②「持参しやすい用具」3.50 が最も高く、3.5 以上であり、次に①「調理が簡単にできる」3.48, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.30, ⑥「上手にできるなら」3.07, ③「家庭にある用具」2.98, ⑦「代用品」2.70, ④「使用したことがない用具」2.55 の順である。

## 2) 押しずしの調理実習前の家庭からの調理用具の持参に対する意識

押しずしの男子は、②「持参しやすい用具」3.67 が最も高く、次に①「調理が簡単にできる」3.58, ⑥「上手にできるなら」3.36, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.33, ③「家庭にある用具」3.17, ⑦「代用品」3.08, ④「使用したことがない用具」3.00 の順であり、女子は②「持参しやすい用具」3.93, ⑥「上手にできるなら」3.87, ①「調理が簡単にできる」3.73, ⑦「代用品」3.73, ③「家庭にある用具」3.60, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.33, ④「使用したことがない用具」3.07

(①と⑦は同じ平均値を示した) の順であった。上位と下位の項目は、一致していたが、その他は異なり、女子の⑦「代用品」が第3位に対し、男子では第6位になっている。押しずしにプリンカップ等を代用して、「オリジナルずし」を作ることに對しての意欲からと推察される。平均値 3.5 以上は、男子 2 項目 (②「持参しやすい用具」, ①「調理が簡単にできる」,) 女子 5 項目 (②「持参しやすい用具」, ⑥「上手にできるなら」, ①「調理が簡単にできる」, ⑦「代用品」, ③「家庭にある用具」) であり、男女ともに最も多く、押しずしは、巻きずしよりも高い評価であることがわかる。

押しずし全体としては、②「持参しやすい用具」3.73 が最も高く、次に⑥「上手にできるなら」3.78, ①「調理が簡単にできる」3.67, ⑦「代用品」3.44, ③「家庭にある用具」3.41, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.33, ④「使用したことがない用具」3.04 の順で、巻きずしと異なり、第2位に⑥「上手にできるなら」、第4位に⑦「代用品」がみられ、上手に作ることや、代用品を持参することに好意的であった。また、押しずしは、平均値 3.5 以上が 3 項目 (②「持参しやすい用具」, ⑥「上手にできるなら」, ①「調理が簡単にできる」) みられ、0.03 から 0.74 まで差はあるが、全項目で巻きずしよりも意識が高く、調理用具持参に対してより好意的であることが認められた。

## 3 調理実習後の調理用具に対する意識

調理実習後の家庭からの調理用具を持参する意識に対して、男子は①「調理が簡単にできる」3.81 が最も高く、次は⑥「上手にできるなら」3.69, ②「持参しやすい用具」3.63, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.53, ⑦「代用品」3.38, ④「使用したことがない用具」3.25, ③「家庭にある用具」3.13 の順であり、女子は①「調理が簡単にできる」4.10, ②「持参しやすい用具」4.00, ⑥「上手にできるなら」4.00, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.72, ⑦「代用品」3.64, ③「家庭にある用具」3.62, ④「使用したことがない用具」3.23 の順であった (②と⑥は、同じ平均値を示した)。上位の 5 項目 (①「調理が簡単にできる」, ⑥「上手にできるなら」, ②「持参しやすい用具」, ⑤「作りたいものを作れるなら」, ⑦「代用品」) の順は、男女で一致していた。調理実習後の家庭から調理用具を持参することに対する意識の平均値 3.5 以上は、男子 5 項目 (①「調理が簡単にできる」, ⑥「上手にできるなら」, ②「持参しやすい用具」, ⑤「作りたいものを作れるなら」, ⑦「代用品」),

女子6項目（①「調理が簡単にできる」、②「持参しやすい用具」⑥「上手にできるなら」、⑤「作りたいものを作れるなら」、⑦「代用品」、③「家庭にある用具」）である。男子において調理実習前に、④「使用したことがない用具」、⑦「代用品」が平均値は2.5以下を示していたが、調理実習後では両項目ともに平均値3以上となり、調理実習を行ったことにより、家庭から使用したことの無い調理用具や代用品を持参することに対しての抵抗感を弱くすることができたと考えられる。

全体として調理実習後の家庭からの調理用具持参に対して、①「調理が簡単にできる」3.97が最も高く、次に⑥「上手にできるなら」3.86、②「持参しやすい用具」3.83、⑤「作りたいものを作れるなら」3.63、⑦「代用品」3.52、③「家庭にある用具」3.39、④「使用したことがない用具」3.24の順であった。調理実習後の家庭からの調理用具の持参に対する意識において平均値3.5以上を示したのは5項目（①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、⑦「代用品」）であり、調理実習前よりも3項目（②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、⑦「代用品」）が増加している。

#### 1) 巻きずしの調理実習後の家庭からの調理用具持参に対する意識

巻きずしの調理実習後の調理用具への意識は、男子では、①「調理が簡単にできる」3.65、②「持参しやすい用具」3.60、⑥「上手にできるなら」3.55、⑤「作りたいものを作れるなら」3.50、③「家庭にある用具」3.35、⑦「代用品」3.30、④「使用したことがない用具」3.15、女子は①「調理が簡単にできる」3.92、⑥「上手にできるなら」3.88、②「持参しやすい用具」3.79、⑤「作りたいものを作れるなら」3.75、③「家庭にある用具」3.50、⑦「代用品」3.38、④「使用したことがない用具」3.25の順であり、第2位と第3位以外は、男女とも同一傾向であった。調理実習後の家庭からの調理用具持参に対する平均値3.5以上は、男子4項目（①「調理が簡単にできる」、②「持参しやすい用具」、⑥「上手にできるなら」、⑤「作りたいものを作れるなら」）、女子5項目（①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、③「家庭にある用具」）であった。

巻きずし全体としては、①「調理が簡単にできる」3.38が最も高く、次に⑥「上手にできるなら」3.73、②「持参しやすい用具」3.70、⑤「作りたいものが作れるなら」3.64、③「家庭にある用具」3.43、⑦「代用品」3.34、④「使用したことがない用具」3.20の順であった。調理実習後の家庭から調理用具持参についての意識の平均値3.5以上を示したのは、4項目（①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」）であり、調理実習前よりも3項目（①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、⑤「作りたいものを作れるなら」）増加している。

#### 2) 押しずしの調理実習後の家庭からの調理用具持参に対する意識

押しずしの男子は、①「調理が簡単にできる」4.08、⑥「上手にできるなら」3.92、②「持参しやすい用具」3.67、⑤「作りたいものを作れるなら」3.53、⑦「代用品」3.50、④「使用したことがない用具」3.42、③「家庭にある用具」2.75、女子は、①「調理が簡単にできる」4.40、②「持参しやすい用具」4.33、⑥「上手にできるなら」4.20、⑦「代用品」4.07、③「家庭にある用具」

3.80, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.67, ④「使用したことがない用具」3.20の順であり, 男女では, 異なった並び順となっていた。このことから, 調理実習後の調理用具持参に対する意識は, 巻きずしでは男女がともに一致しているが, 押しずしでは性別によって優先する項目が異なることが認められた。平均値3.5以上は, 男子5項目(①「調理が簡単にできる」, ⑥「上手にできるなら」, ②「持参しやすい用具」, ⑤「作りたいものを作れるなら」), 女子6項目(②「持参しやすい用具」, ①「調理が簡単にできる」, ⑥「上手にできるなら」, ⑦「代用品」, ③「家庭にある用具」, ⑤「作りたいものを作れるなら」)である。押しずしの女子は, 巻きずしの女子では, みられなかった最小値3(「そう思わない」(2)は, 認められなかった。)が2項目(①「調理が簡単にできる」, ②「持参しやすい用具」), 最小値2(「まったくそう思わない」は認められなかった。)が4項目(③「家庭にある用具」④「使用したことがない用具」⑥「上手にできるなら」⑦「代用品」)みられた。

押しずし全体の家庭から調理用具を持参することに対して, ①「調理が簡単にできる」4.26, ⑥「上手にできるなら」4.07, ②「持参しやすい用具」4.04, ⑦「代用品」3.81, ⑤「作りたいものを作れるなら」3.63, ③「家庭にある用具」3.33, ④「使用したことがない用具」3.30の順であった。巻きずしと押しずしは, 上位3項目と最下位が一致していた。また, 平均値3.5以上は, 巻きずしの4項目(①「調理が簡単にできる」, ⑥「上手にできるなら」, ②「持参しやすい用具」, ⑤「作りたいものを作れるなら」,)に⑦「代用品」を加えた5項目であり, 押しずしにおいて, 家庭から実際に代用品を持参し活用したことで巻きずしとの差が生じたと思われる。調理実習前よりも2項目(⑦「代用品」, ⑤「作りたいものを作れるなら」)増加している。

#### 4 調理実習前後の調理用具に対する意識の比較

全体として家庭から調理用具持参に対して, 調理実習前では, 最も高い項目は②「持参しやすい用具」が, 調理実習後では, ①「調理が簡単にできる」と, 調理実習を通し, 持参する手間よりも, 簡単にできることが調理用具持参の条件として重要視するようになったといえる。

全体として調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差をt検定したところ, ①「調理が簡単にできる」, ⑤「作りたいものを作れるなら」には5%水準で, ④「使用したことがない用具」, ⑥「上手にできるなら」, ⑦「代用品」においては1%水準で有意差がみられた( $t(70)=-2.52, p<.05$ ;  $t(70)=-2.04, p<.05$ ;  $t(70)=-3.213, p<.01$ ;  $t(70)=-3.54, p<.01$ ;  $t(70)=-2.99, p<.01$ )。

男子において調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差をt検定したところ, ④「使用したことがない用具」, ⑥「上手にできるなら」, ⑦「代用品」において5%水準で有意差がみられた( $t(31)=-2.38, p<.05$ ;  $t(31)=-2.51, p<.05$ ;  $t(31)=-2.30, p<.05$ )。

女子において調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差をt検定したところ, ①「調理が簡単にできる」, ④「使用したことがない用具」, ⑥「上手にできるなら」において5%水準で有意差がみられた( $t(38)=-2.30, p<.05$ ;  $t(38)=-2.21, p<.05$ ;  $t(38)=-2.50, p<.05$ )。

巻きずしにおいて調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差をt検定したところ, ③「家庭にある用具」には5%水準で, ④「使用したことがない用具」, ⑥「上手にできるなら」,



⑦「代用品」においては1%水準で有意差がみられた ( $t(43)=-2.41, p<.05$ ;  $t(43)=-3.64, p<.01$ ;  $t(43)=-3.53, p<.01$ ;  $t(43)=-2.73, p<.01$ )。

押しずしにおいて調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差を t 検定したところ、①「調理が簡単にできる」において5%水準で有意差がみられた ( $t(26)=-2.30, p<.05$ )。

以上の結果から、家庭からの調理用具持参に対する意識は、調理実習を行うことで、高まることが認められた。

全体として、平均値は、調理実習前 2.30 から 3.81 まで、調理実習後 2.75 から 4.40 までであり、調理実習後は、2.5 以下を示した項目はなく、好意的な評価であった。また、男子は、調理実習前の調理用具に対する意識が女子よりも低かったが、調理実習後では、0.5 以上高くなった項目が女子の3項目（巻きずし④「使用したことがない用具」、⑥「上手にできるなら」、押しずし①「調理が簡単にできる」）に対し11項目（全体④「使用したことがない用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」⑥「上手にできるなら」、⑦「代用品」、巻きずし③「家庭にある用具」、④「使用したことがない用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、⑥「上手にできるなら」、⑦「代用品」、押しずし①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」と3.7倍となっており、調理実習を通してより好意的な意識に変化したことが認められた。このことから、題材「オリジナルずし」は、男子に調理用具を家庭から持参することに対して抵抗感を弱くできたと推察できる。

## 5 家庭からの調理用具持参

題材「オリジナルずし」に入る1週間前予告で、巻きずしは班で1枚、押し型代用品（プリンカップ等）を班1個を教師が準備すると告げた結果、家庭からの調理用具持参は、20件28.2%（巻きずし10枚、押しずしの型9個、うちわ1枚）であった。調理用具持参は、女子16件、男子4件であり、女子が4倍であった。また、巻きずし11件（巻きずし10枚、うちわ1枚）・押しずし9件（押し型2個、牛乳パック3個、卵のパック1つ、ゼリーのカップ1つ、箱1つ、カップ1つ）である。押しずしでは、押し型の持参よりも牛乳パック等の押し型の代用品を持参する者が多くみられた。

調理用具持参者の調理実習前の調理用具に対する意識は、②「持参しやすい用具」4.00が最も高く、次に①「調理が簡単にできる」3.75、⑥「上手にできるなら」3.75、③「家庭にある用具」3.50、⑦「代用品」3.45、⑤「作りたいものを作れるなら」3.40、④「使用したことがない用具」2.65の順であった。調理用具持参者と、全体の調理用具に対する意識の平均値を比較すると、④「使用したことがない用具」以外の全項目で、調理用具持参者の平均値が上回っている。平均値3.5以上は、全体の2項目よりも多く4項目（②「持参しやすい用具」、①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、③「家庭にある用具」）であり、「まったく思わない(1)」は認められなかった。最も平均値に差がみられたのは、⑦「代用品」で、調理用具持参者が0.46高い値を示しており、調理用具の代用品を持参することにより好意的であると推察される。

調理用具持参者の調理実習後の調理用具持参に対しての意識は①「調理が簡単にできる」4.45が最も高く、次に⑥「上手にできるなら」4.30、②「持参しやすい用具」4.20、⑤「作りたいものを

作れるなら」4.05, ③「家庭にある用具」3.85, ⑦「代用品」3.70, ④「使用したことがない用具」3.30の順であった。調理用具持参者と、全体の調理用具に対する意識の平均値を比較すると、0.06～0.64と差がみられるが、全項目において、調理用具持参者の平均値が全体よりも高い値を示した。また、調理実習後の家庭からの調理用具持参に対しての意識が平均値3.5以上は、全体4つより多い6項目(①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、③「家庭にある用具」、⑦「代用品」、)であり、2項目(①「調理が簡単にできる」と⑥「上手にできるなら」)において、「そう思う(2)」は、認められず、他の項目でも「まったくそう思わない(1)」はみられなかった。最も平均値に差がみられたのは、①「調理が簡単にできる」で、調理用具持参者が0.48高い値を示しており、持参した調理用具を使ったことで調理が簡単にできたことが推察される。

## ま と め

中学校でのすし作り(巻きずし、押しずし)の授業実践を通して、家庭からの調理用具の持参や調理用具の代用を調理実習前後の意識における変化を検討した結果、以下のことが明らかとなった。

- 1) 調理実習前の家庭からの調理用具持参に対して、全体では、男女とも②「持参しやすい用具」と①「調理が簡単にできる」の2項目が平均値3.5以上で、調理用具持参には、調理が簡単にでき、持参しやすい大きさであることが重要であることが分かった。
- 2) 全体では、調理実習後の調理用具持参に対する意識の平均値3.5以上は、調理実習前の2項目から5項目へ増加し、調理用具持参に対して、より好意的になったことが窺える。
- 3) 巻きずし全体の調理実習前の調理用具持参に対して、3.5以上が②「持参しやすい用具」と①「調理が簡単にできる」であり、次に⑤「作りたいものを作れるなら」、⑥「上手にできるなら」、③「家庭にある用具」、⑦「代用品」、④「使用したことがない用具」の順である。
- 4) 巻きずし全体の調理実習後の調理用具持参に対して、①「調理が簡単にできる」、⑥「上手にできるなら」、②「持参しやすい用具」、⑤「作りたいものを作れるなら」、③「家庭にある用具」、⑦「代用品」、④「使用したことがない用具」の順であった。調理実習後は、平均値3.5以上が4項目で、調理実習前よりも3項目増加している。
- 5) 押しずし全体の調理実習前の調理用具持参に対して、巻きずしと異なり、上手に作ることや代用品を持参することに好意的であり、押しずしのほうが高い値を示し、調理用具持参に好意的であることが認められた。
- 6) 家庭からの調理用具持参は、20件(女子16件、男子4件)の28.2%で、女子が男子の4倍であった。また、巻きずし11件(巻きす10枚、うちわ1枚)・押しずし9件(押し型2個、牛乳パック3個、卵のパック1つ、ゼリーのカップ1つ、箱1つ、カップ1つ)で、押しずしでは、押し型の持参よりも牛乳パック等の押し型の代用品を持参する者が多くみられた。

- 7) 全体において調理実習前後での家庭からの調理用具持参に対する意識の差を t 検定したところ、①「調理が簡単にできる」、⑤「作りたいものを作れるなら」は 5%水準で、④「使用したことがない用具」、⑥「上手にできるなら」、⑦「代用品」は 1%水準で有意差がみられ、家庭から調理用具持参に対する意識は、調理実習を行うことで、高まることが認められた。
- 8) 男子は、調理実習前の調理用具に対する意識が女子よりも低かったが、調理実習後では、0.5 以上高い項目が女子の 3 項目に対し 11 項目と題材「オリジナルずし」は、男子の調理用具持参に対する抵抗感を弱くすることができると推察できる。
- 9) 調理用具持参者の調理実習前の意識は、全体と比較すると 1 項目を除いて、調理用具持参者の平均値が上回っており、最も差があったのは⑦「代用品」で、持参により好意的であった。全項目で、「まったく思わない (1)」はみられなかった。
- 10) 調理用具持参者の調理実習後の意識と全体とを比較すると、全項目で、調理用具持参者の平均値が高い値を示し、調理用具持参者が調理用具持参に好意的であることが認められた。

以上のことから、中学校でのすし作り（巻きずし、押しずし）の授業実践を通して、家庭からの調理用具の持参や調理用具の代用について調理実習前後での意識の変化が認められた。

巻きずし、押しずしの両方とも調理実習後において平均値 3 以上を示し、調理用具持参に好意的であったが、より押しずしのほうが代用品を工夫できることにより好意的であることが認められた。押しずしを調理実習で行う際は、押し型やその代用品を家庭から持参できる可能性があり、事前に、動機づけをすれば可能であることが分かった。さらに本研究では、教師側で調理実習の材料を準備したので、今後、地域素材の持参による調理実習や他の教材についても検討してみたい。

## 注

- 1) 文部科学省 『小学校、中学校、高等学校等の学習指導要領の一部改正について（概要）』  
URL [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/03122608.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/03122608.htm) (アクセス 2006 . 8. 3)
- 2) 佐藤文子ほか 『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』, (東京書籍, 平成 17 年文部科学省検定済).
- 3) 中間美砂子ほか 『技術・家庭 [家庭分野]』, (開隆堂, 平成 17 年文部科学省検定済).
- 4) 「Welcome to Sushi-MASTER」 URL <http://sushi-master.com/jpn/whatis/history.html>
- 5) 山本紀久子・白井美幸 「中学校家庭科教科書記載状況と食生活関連用具の保有および使用の実態」, 『茨城大学教育学部紀要』 56 号, 259-272, (2007)
- 6) 山本紀久子・白井美幸 「食生活関連用具の保有と使用の実態」, 『茨城大学教育実践研究』 25 号, 95-105, (2006)
- 7) 山本紀久子・白井美幸 「小学校家庭科教科書記載状況と食生活関連用具の保有および使用の実態」, 『茨城大学教育学部紀要』 56 号, 247-258, (2006)